

光合成を高め、生育促進・減農薬をめざす機能性活力剤

1kg 入り
本体価格 ¥3300

元気に専科

生育が早まり
肥料残りが
起きにくい

- 光合成を高め、肥料の吸収を良くし、肥料残りが起きにくく、健全な生育をします。
- 体質強化・体内酵素の活性化、免疫力を高め、さらに茎葉の表面を丈夫にするなど病害虫の被害を受けにくくし減農薬栽培が期待できます。

特 徴

サシ芽から開花期まで使えます

「元気に専科」は二価鉄、シリカ、マグネシウム、トレハロース、竹酢液、ニンニク及びトウガラシのエキスを配合した機能性活力剤です。

- 二価鉄及びマグネシウムは葉緑素の生成を高め光合成を活発にし力強い生育を促します。
- シリカは茎葉の表面を丈夫にし病原菌の侵入を防ぎます。
- 竹酢液・ニンニク・トウガラシエキスは害虫のきらいな臭い成分を多く含み被害を軽減します。
- トレハロースは保湿性を高め、冬の過乾燥を防ぎ夏の暑さによるしおれを軽減します。



灌水又は葉面散布で
1000倍にうすめ
7～10日に一度掛ける

キクスイカミキリによる被害



こうなってからでは遅い 早めの散布が必要

こんな時に効果的

- 日照不足や遮光ネット使用時の日照低下による光合成不足を補い、生育不良の改善をする。
- チッ素過剰症や肥料残りを未然に予防する。
- 病原菌による感染を予防する（菊の白サビ・ウドンコ、バラの黒星・ウドンコは発生を見ない）
- 害虫は飛来が減り被害が軽減される。（キクスイカミキリの被害は非常に受けにくくなる）
- 鉄分不足による黄化症の改善に効果的

草花その他植物栽培にもお使い下さい

発病の例と効果（うどんこ病の例）



元気に専科 500 倍で 2～3 リットル根元灌水 未使用

菊の病気では白カビ、黒斑病、褐斑病などの発生が多く、うどんこ病は発生順位は低い。当社試験ハウスでは病気の発生がなく紹介はできない為、今回は畑での「きゅうり」の例を紹介いたします。



キクスイ
カミキリ

「元気に専科」の臭いが大嫌いのようだ

「元気に専科」で農薬散布を減らす

“病気になるれば、虫がつけば、消毒すればよい”

この消毒依存の考え方を改めることが **減農薬の第一歩**



減農薬の実現は有機栽培が大前提となります。

化学肥料は使えば使うほど体質が弱くなる為、病虫害の被害を受けやすくなり、農薬散布の回数が増えてしまいます。

「元気に専科」はシリカ成分の働きにより茎葉の表面を丈夫にし、病原菌の侵入を防ぐ直接的な効果とともに、配合した竹酢液やニンニク、トウガラシなどの酵素や多種多様の有機由来の栄養分により、免疫力の向上や活性化など消毒以前の基礎的な体質強化による耐病性向上を図ります。

(体質が強く健全な植物ほど病虫害の被害は受けにくい)

菊のウドンコ病や白サビ病はシリカ成分の効果でほとんど見ることはなくなります。

害虫に対しては“虫のきらいな臭い成分”が含まれている為、飛来数は確実に減ります。特にキクスイカミキリは激減することは実感できます。しかし、害虫の種類は多く、読めないのが実状です。そこで“噴霧器を使用する農薬散布を極力減らす”この考え方が現実的であると思います。

対策は根から吸わせるタイプ（表土に散布）の浸透移行性殺虫剤を使用します。

また農薬を散布する場合は“デンブン系”（気門封鎖型）の殺虫、殺ダニ剤を使用する。虫は気門を塞がれ窒息死する仕組みです。

油虫、ダニ、スリッパスなど小さな虫には効果的です。

大きな虫は捕殺する。これができない場合のみ農薬散布をする。こうすることで噴霧器を使用する農薬散布はほとんど必要がなくなると思います。

ご近所様への気兼ねや体力的な負担も大幅に軽くなります。

これらの問題を解決し減農薬の土台をつくるのが「**元気に専科**」です。

使い方

- 1000 倍に水でうすめて 7～10 日間隔でお使い下さい。キャップ 1 杯約 10cc を 10 リットルの水 (9 号菊鉢と同じ大きさのバケツ) にうすめると約 1000 となります。
- 農薬と混合使用する場合は希釈後に 1000 倍となるように投入して下さい。
- 灌水の場合は 1000 倍にうすめてお使い下さい。
- 液体肥料と混合使用する場合は 1000 倍になるように混合して下さい。
- バラ・草花等地植えの植物に使用する場合は 500 倍で株元にタツブリと掛けて下さい。
- アルカリ性農薬とは混合使用できません。



お申し込み・お問合せは

ウチダケミカルコーポレイション

TEL **029-869-1777**

FAX **029-869-1666**

〒300-4204 茨城県つくば市作谷 1711-12 郵便振替 00820-6-96628